

## 第3回震災伝承検討会議 概要

日 時：平成28年11月28日（月） 午後6時30分～午後8時30分

会 場：石巻市役所4階 庁議室

概 要：

- (1) これまでの「震災伝承検討会議」を振り返りについて
  - ・第1、2回「震災伝承検討会議」で出された意見等について確認した。
- (2) 今後の震災伝承等に関する協議について
  - ・事務局の作成した震災伝承計画（たたき台）をもとに、協議テーマ案「震災伝承の理念の考え方」、「伝承する内容、伝承の方法」について意見を交換した。

### 会議での主な意見

- ・唱えやすい「行動目標」を考えたい。
- ・世界に発信するにはどうしたら良いか、という視点をもつ必要がある。世界に向けた体制には石巻市だけでなく、国・県・学術機関も含めるべき。
- ・「伝える、守る」ではなく、市民憲章のように「伝えたい、守りたい」など、思いが伝わるような言葉で宣言したい。
- ・まずは「今を生きる人へ」伝えることが一番大事で、それを続けることで将来につながっていく。
- ・表現として「子々孫々まで伝える」というのが考えられる。千年に一度と言うが、歴史的には千年ではなく百年単位で起きており、いつ起きるかわからない。
- ・「わかりやすさ」が大事。1～2行のなかで具体的にイメージできるような言葉、ビジョンを示す。
- ・多様な主体が多様に伝えることを支援し、積極的に巻き込むしくみをつくるということが必要ではないかと思う。
- ・「命の大切さ」「命を守るための行動」という伝承の一番大切なことを基本理念に入れてほしい。「多くの命を失ったから今伝えている」ということも入れてほしい。
- ・たたき台には被災者の当事者性が少し足りない。外から見ている人の視点で、全体が作られているのかなという感じがする。
- ・市民にどう浸透させるかが一番大事。報告書のほかに、震災伝承の基本理念や方針を行動憲章のようなかたちで示す。パッと見たときに大切なことが理解でき、命を守る大切さを感じてもらえるよう、子供でも分かる言葉で伝えるべき。
- ・「発信」に関する部分が多い印象だが、まずは足元の市民に対して伝えていくということ、明確な内容、行動するという視点を入れてほしい。
- ・震災後の生活の変化を、ネガティブなことも含めてきちんと伝えなければならない。
- ・目的に対して解決策を示すようなかたちで提示してほしい。
- ・伝えることが難しい、伝わらないなかで、どうやったら伝わるかを検討し続けていくべきだということも、計画のなかに入れてほしい。
- ・中越のように地域住民が担い手となることが大事なので、そのことを加える。
- ・具体化のための推進的なプロジェクトは必要だと感じる。市が主導するのもかもしれないが、中越の社団法人のような取り組みの担い手となり、統括する大きな組織が必要になる。
- ・「体験する」ことで、行動指針を味わうことのできるプログラムをつくる。どう体験して自分事にするか各地域でつくっていければ良い。
- ・大切なのは持続可能性、モチベーション。防災と日常はつながっているのだということ、当事者意識を持って伝えなければならない。